

ごあいさつ

本日はお忙しい中、また遠隔開催という変則的な形式にも関わらず、2020年度プロジェクト演習活動報告会にご参加を戴き、誠にありがとうございます。

私共は、学外の多くの方々にご支援を戴きながら活動し、教室の中だけでは得られない、多くの学びを得ることができました。ご指導・ご支援を戴きました皆様に、この場を借りて篤く御礼申し上げます。

開会に先立ち、各チームの活動概要をまとめたポスターをスライドショーでお伝え致します。ご笑覧戴ければ幸いです。

これを機に、より多くの皆様にプロジェクト演習に関心をお持ち戴ければ幸甚に存じます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2020年12月19日
報告者チーム一同

お時間があれば、この機会にプロジェクト演習のホームページ ならびにフェイスブックもご覧戴ければ幸いです

1:プロジェクト演習ホームページならびに資料庫



ホームページにはプロジェクト演習の目的や構造、同・資料庫には教材や過去の成果物、マスコミ報道の記録等を収めています。

<http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/project.html>

2:プロジェクト演習フェイスブック



フェイスブックでは、各チームの

具体的な活動状況等を速報しています。

<https://www.facebook.com/IUChiikipg/>

チーム Meet U

メンバー: 飯泉海人 宮下楊子 柏繭子
杉脇大起 高安大成

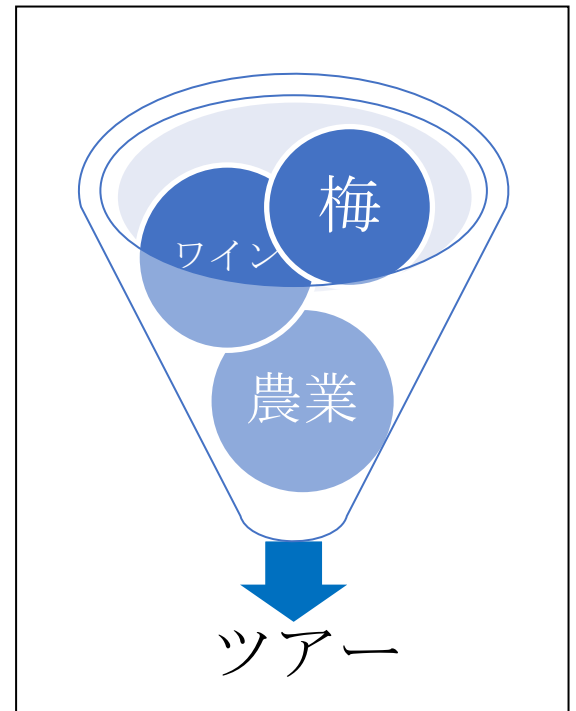
活動概要: 水戸の活性化×ツアー計画

私たちは Domaine Mito 株式会社代表取締役社長宮本紘太郎様からご提案を受け、ワインを入口として水戸の魅力を発信するツアーの計画を目的としました。

チームとしての目的

水戸の既存の魅力といえる、梅や歴史といった要素に、新たな魅力であるワインや農業を掛け合わせた斬新なツアーの計画を目的としている。

またその過程で既存の魅力の再発見・新たな魅力の発見する能力を身に付け、地域の課題に対する解決能力を養う。



活動内容

- 8/23 (日) 地酒フェス
- 8/28 (金) ワイン醸造体験
- 9/6 (日) ブドウの収穫体験
- 10/15 (木) 鯉淵学園視察

活動報告

11/23(月)

ツアーの計画の草案完成

12/5(土)、12/13(日)

宮本さまへのツアー提案

東京出発

東京解散

ブドウの
収穫

偕楽園

昼食

ワインの
醸造

活動成果

水戸の既存の魅力と新たな魅力を掛け合わせた斬新なツアーの計画を目指したが、全国的に見れば目新しさのないツアーとなってしまった。もっと魅力のあるツアーの計画ができれば良かった。

まとめ

今回のプロジェクトでは、「水戸の魅力を活かした斬新なツアー」の作成を目指し活動してきた。ツアー要素の候補場所に実際に現地に赴き、体感することでどのようなツアーが出来るのか具体的に思案し、実現性の高いツアーが計画できた。しかしチームの目的である「斬新なツアー」という点において目標は達成できたとはいえなかった。

このプロジェクトを通して、プロジェクトの目的とそれに適した目標の設定の重要性、社会人として責任をもって行動することの重要性を特に痛感した。今後の活動ではこの2つを達成できるように行動したい。

茨内リンクプロジェクト

メンバー：結城大雅・浅野楓・小野崎邦彦
雨澤明日香・大橋拓朗・羽田皓

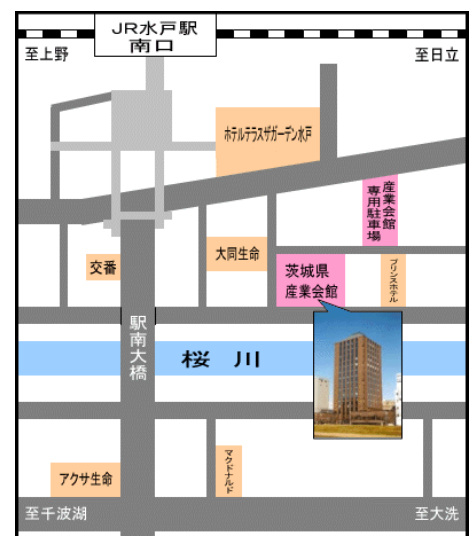
人のつながりを作ろう

今年4月に誕生した茨城大学水戸駅南サテライト。この場所をどのように活用していくかということについて考えるため、本チームが結成されました。「共創の場づくり」というコンセプトに沿って、その達成のためにさまざまなイベントを企画しました。

チームの目的

茨大生がつながることを全力でサポートしたいという思いから、チームの目的を「人を巻き込む、働きかける」と設定しました。

さらに、さまざまな人とのつながりをつくるにあたって、そもそもチーム内の連携がなければ人々のつながりを取り持つことはできないと考え、「チームの仲を深める」ということも目的の一つに加えました。



～水戸駅南サテライトとは～

今年4月、茨城県産業会館の2階にできた新しい茨城大学のキャンパスです。場所は水戸駅南口から徒歩1分（右地図参照）、イベントなどを開く際、非常に便利です。利用時間は平日の9時から17時までとなっています。

水戸市桜川 2-2-35
茨城県産業会館 2F
TEL 029-297-3152

価値観を広げる茨大トーク

社会人から話を聞くことで茨大生の価値観を広げることを目的として、茨城大学水戸駅南サテライトを会場に 2020 年 11 月 21 日にイベントを実施しました。当日は茨城大学発ベンチャー(株)Dinow を設立した茨城大学大学院生の高橋健太様をお招きし、モチベーショングラフをもとにしたグループワークや高橋様の講演を通して、参加者の価値観を広げることができました(写真上)。



みんなで茨大トーク

雑談を通して大学生の新たなつながりを生み出すことを目的に茨城大学水戸駅南サテライトを会場に、2 回イベントを実施しました。当日は「そうそうゲーム」や「桃太郎ゲーム」を通してのアイスブレイクやその後の雑談により参加者との親睦を深めることができ、新たなつながりを生み出すことができました(写真下)。



まとめ

プロジェクトを通して様々な人とのつながりを生み出すことができました。本プロジェクトは今年度からスタートし、先輩方の活動の前例がなかったため、活動の中で苦労することも多々ありました。しかしその分学びが多く、特に 11 月に開催した価値観を広げる茨大トークでは社会人や学生を巻き込みイベントを成功させることができました。今後の活動としてはラジオ出演や価値観を広げる茨大トーク vol. 2 を予定しています。

Mito Bloom

メンバー：山口二千翔 木村友紀奈 稲野邊優香
太田 成美 須摩 玉来

◆活動概要『水戸市民の地域コミュニティ支援』

昨今の地域コミュニティの衰退に危機感を抱き、昨年度から310食堂と連携して交流支援の活動を行っている。

しかし今年度はコロナ禍の影響により、直接的な交流の機会を持つことが難しい。そこでオンライン上での活動を中心に、310食堂という交流の場を発展させるための取り組みを行った。

◆目的

水戸市民の地域コミュニティを支えること

→310食堂に多世代が関わる仕組みをオンライン上で
つくること

◆310食堂とは

主催：310食堂実行委員会

開催日：毎月第3土曜日

場所：水戸市内3拠点

趣旨：食を通じて地域住民の交流の
場となることを狙いとする。



※現在はコロナ禍を受け、テイクアウト弁当の配布を実施中

◆NPO法人セカンドリーグ茨城とは

子育て世代の支援、地域の課題解決などを行うNPO法人。

活動は310食堂の運営など多岐にわたる。

事務所：茨城県労働福祉会館

◆活動成果

1. ホームページ開設とレシピ掲載

310 食堂を、若者を中心としたより多くの方々に知っていただくため、ホームページを開設した。NPO 法人セカンドリーグ茨城様のご協力を得て、茨城の農家の方々からいただいたレシピを"農家飯"として掲載した。農家の方々と閲覧者が私たちのホームページを通じて、間接的ながら交流し、地元の食材について考えたり、310 食堂再開後に利用したいと考えてくださったりすることを願っている。

2. SNS の運用

TwitterとInstagramのアカウントを定期的に運用し、Mito Bloomの活動の様子やメンバーが作った料理などを投稿した。SNSを通して発信し、活動を身近に感じてもらうことで同世代の人たちにも310食堂、そしてMito Bloomに興味を持ってもらうことを狙いとした。



Twitter



Instagram

◆今後の予定

HP を公開し、その旨を SNS 上で広報する。また HP や SNS 閲覧の状況から、効果や今後の課題を検討する。

◆まとめ

今年度はイレギュラーな活動内容となったが、コロナ禍という困難な状況でも諦めず、出来ることを模索した経験は自分たちを大きく成長させてくれた。また、人と会えない環境の中改めて人との繋がりの大切さを感じた。厳しい状況の中、ご協力を頂いた皆様に心から感謝を申し上げますとともに、今後も感染状況を見極めながら活動を続けたい。



さとみ・あいチーム

メンバー：谷川晴香 大金咲由莉 友部瑠莉那 藤枝千夏 大貫史織

★さとみリサーチプロジェクト★

茨城県常陸太田市里川地区（旧里美村内）の名産である里川カボチャの生産者を増やしたい。そんな思いから『さとみリサーチプロジェクト』を立ち上げました。里川カボチャの生産者を増やすために、人材募集の広報活動が必要だと考えました。そのために、里川カボチャの生産に携わっている生産者へインタビュー調査やアンケート調査を行い、里川カボチャの栽培方法や現在の広報活動について、情報収集しました。その上で、どんな広報をすれば良いのかを考えました。

チームとしての目標

今後も活用できるマニュアルや実践例の確立、現地の方が継続しやすい成果物の作成、広報活動の経験を積む。
これらの活動を通し、**分析力・説明能力・情報収集力**を向上させる。

活動内容

オンラインミーティングや里川地区への現地訪問を行いました。

6月～7月	プロジェクト構想設計
8月27日	現地訪問① 挨拶、カボチャ畑の見学
9月～10月	調査項目作成
11月1日	現地訪問② 調査内容の相談、カボチャコロッケ作り
11月22日	現地訪問③ インタビュー調査、アンケート調査の依頼
11月～12月	調査結果分析

今年度の活動

調査活動では、里川地区とはどんな地域なのか、里川カボチャを生産して楽しいなと感じることや大変だなと感じること、新たな生産者としてどんな人に来てもらいたいかなど、里川カボチャ生産の担い手を集めるための広報に向けて情報収集を行いました。



たくさんの方々の里川地区の方々に協力していただき、地元への想いをたくさん聞きました。カボチャ畑の見学、コミュニティセンターでのインタビュー調査、道の駅の見学等、様々な場所に足を運び、里川地区を肌で感じました。

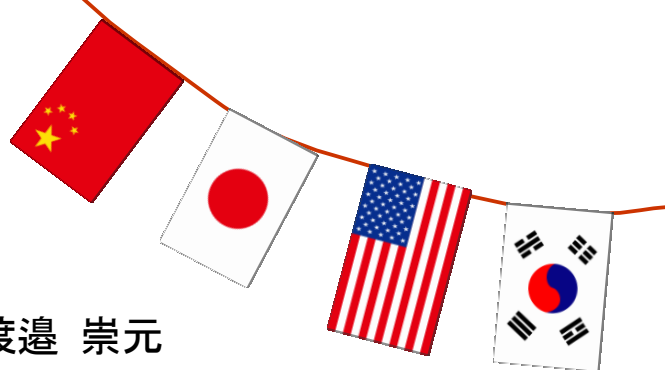
里川地区は標高 460m~800m に立地しています。気温に寒暖差があるからこそとても甘くて美味しいカボチャが生ります。そんなカボチャを使ったお料理もいただきました。今年度の活動では、里川カボチャに焦点を当てましたが、ダイコン、セロリ、ハクサイ等、他にも美味しい野菜を作っている方と交流することができました。



まとめ

今回のプロジェクトでは里川地区の特産品である里川カボチャの生産者を対象に、インタビュー調査を行いました。これらの活動に加えメールでのやり取りや役割分担などを通して「分析力」「説明能力」「情報収集力」を向上させることができました。全体を通してこれまでのさとみ・あいとは違った大学生らしい活動を行うことができました。今回のプロジェクトでの経験を今後の大学生活に活かしていきたいと思えます。

チーム Kor i Na



チームメンバー：安藤 未羽 中山 瑠伽 渡邊 崇元

根本 千歳 小澤 栄里

茨城の魅力を世界へ！！🇯🇵

茨城県北ジオパーク構想の水戸・千波湖リーフレットを、英語・中国語・韓国語に翻訳し、翻訳版リーフレットを作成いたしました！

プロジェクトの目的🌱

●既存のリーフレット翻訳

茨城県の観光資源 PR に貢献

●インバウンド推進

外国人の方に茨城の魅力を知ってもらおう

チームとしての目標🌸

●社会人基礎力を養う

チームワーキング力

計画力

課題発見能力

🌸 活動内容 🌸

翻訳作業

チームで協力し、日本語のリーフレットを英語・中国語・韓国語の3カ国語に翻訳しました！

学内外の方々に語学的ネイティブチェックや地質学的学術用語のチェックにご協力いただきました！

底本の日本語版リーフレットは、茨城大学理学部の学生である「地質情報活用プロジェクト」の皆様が作成しました！地質学的学術用語のチェックにご協力いただきました！



はじめての！

イラストレーター作業

茨城大学ジオパーク推進室の PC を使わせていただき、印刷用の版下を作成しました！慣れないイラストレーターを使いこなすのはとても大変でした🍀イラストレーターの使い方は地質情報活用プロジェクトの皆様にご教授いただきました！ありがとうございました！



ジオパーク推進室は、茨城県北地域の世界ジオパークネットワーク再加盟を目指して活動しています！

❀結果・成果❀

ついにリーフレットが完成！



こちらは英語版リーフレットです

完成したリーフレットは、現時点では茨城大学ジオパーク推進室と大学の図書館横のインフォメーションラウンジに設置する予定です。これからさらにリーフレットの設置場所を増やし、茨城県の魅力を世界に届けていきたいです！

❀まとめ❀

コロナ禍だからこそ常に情報共有を意識し、チーム活動の現状をメンバー全員が把握することによってチームワーキング力を高めることができました。プロジェクト開始時よりもメンバーそれぞれが、常に今すべきことを意識して行動できるようになりました！

そして、翻訳活動を通して、各言語への理解を深めると同時に、私たちも知らなかった茨城の魅力を知ることができました。学内外の方々にたくさんのご協力をいただき、人との繋がりの大切さを学びました。

今回のプロジェクトで学んだ力をこれからの学生生活の中でも発揮できるよう意識し、社会人になって役立てられるように頑張ります！



茨大交通政策課チーム



メンバー：菊池祐太郎 伊丹丈瑠 尾崎友祐
小野夏鈴 齋藤遥 高野優香
和田綾香 大竹美沙 河内彩奈咲

🚲 茨大生の自転車マナー向上を目指して 🚲

現在、地域の方から寄せられる茨大生の自転車の乗り方に関する苦情や、茨大生の自転車事故が増加しています。この現状を改善するために、動画とチラシ・電子パンフレットを用いた茨大生の自転車マナー向上プロジェクトを行いました。

<チームの目的>

- 茨大生に正しい自転車ルールを知ってもらう
 - 学内外の方と協力し、自分たちで課題解決策を考える社会人基礎力を養成する
- これら2つを目標に活動しました。



<活動内容>

Teams 上で週1回の定例会議を基本に、様々な活動を行いました。

6~8月	○チームで取り組む課題の決定 ○フィールドワーク実施(学内・大学周辺)
9月	○水戸市役所での学外実習 ○サイクルツーリズムの勉強会参加
10月	○動画・チラシ・電子パンフレット内容の決定 ○「茨大あるある」を学生から募集 ○茨城放送「4Me」にラジオ出演
11月	○動画の撮影・編集 ○チラシ・電子パンフレットの作成

<活動の成果>

(1) 動画の完成

「共感できるテーマを軸にして、多くの人に見てもらおう」をコンセプトとして動画を作成しました。茨大あるあるの動画に自転車マナー啓発のCMを入れることで、動画を楽しく見てもらい、気軽に自転車マナーを知ってもらえるよう心がけました。



(2) 電子パンフレット・チラシの完成

「自転車ルールを楽しく学んでもらう」がコンセプトのチラシと「自転車に関する実用的な情報を知ってもらう」がコンセプトの電子パンフレットを作成しました。

チラシは手に取ってもらえるよう、電子パンフレットは自転車に関する情報をより多くの茨大生に知ってもらえるよう、心がけました。



🚲 まとめ 🚲

最初の構想から何度も変更を重ねる中で、多くの課題に直面しましたが、水戸市交通政策課様や先生方のご指導をいただきながらプロジェクトを遂行することができました。

今回の活動を通して、1つの課題を解決するにはチーム内での分担や協力してくださる方々との連携がとても重要であることを学びました。上手くいかないことも多々ありましたが、失敗を重ねながら学内外の方やチーム内との連携の取り方、相手に誤解のない言葉の選び方などの実践的な「コミュニケーション能力」を養うことができました。

こみっとフェスティバル チーム

メンバー：新井優花 飯泉朋香 大滝琴美
大山翼 君和田彩歩 木村拓未
佐藤美理 森田壽一
池田拓野 佐藤宏紀

コロナ禍だからこそそのイベント

2020年は新型コロナウイルスにより、人々との対面によるつながりが少なくなりました。だからこそ、NPO 法人やボランティア団体がアクティブに活動することで、「つながりの輪」を広めることができるのではないかと考えた。我々学生により、「コロナ禍ならではの」内容の企画・広報をこの2020年度行い、今後の「こみっとフェスティバル2021」へ進む。

能動的なボランティア参加へ

こみ報チームではパンフレットの作成、企画班ではVR動画撮影などで様々なボランティア活動に参加することとなった(図1,2)。私たち大学生の一人一人が「社会貢献」とはどのようなものか、そしてボランティアを通して「やりがい」を認識することができ、こみっとフェスティバルへの貢献だけでなく、地域の発展にも貢献することができた。



図1
きもの文化を大切にする会への参加



図2
水戸子どもの劇場への参加

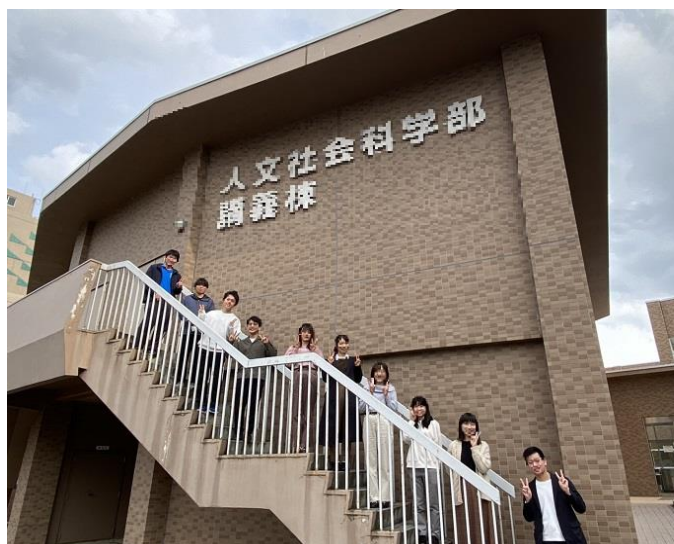


図3：今年度の10人のメンバー

今年のチームの特色

今年度のチームは総勢10人在籍し、小チーム制をとることとなった(図3)。

そのため、「こみ報チーム」と「こみフェス企画班」に分け、若い視点から企画・広報の両方に力を注ぐことが可能となった。

こみ報チームによる活動

こみ報チームでは、水戸市内のボランティア団体とこみっとフェスティバルの広報を目的に、1から自分たちの手でパンフレットを作成した(図4)。配布部数・対象の大幅な拡大と事前配布により、様々な年代への周知に努めた。また、SNS アカウントを用いてパンフレットに掲載しきれなかった情報の発信を進めている。



図4：広報用のパンフレット



図5：にこにこ食堂(上)でのVR撮影



図6：クイズラリーの(右)テスト風景

企画班による活動

企画班では、コロナ禍での「学びの場の提供」を目指し、VR企画とデジタルクイズラリー企画をたて、実行委員会の承認を受けた。VR企画は、ボランティア団体の活動に出向き、VRカメラで撮影した(図5)。また、クイズラリー(図6)では、ボランティア団体に問題作成のための情報提供をお願いし、問題を作成した。

まとめ

学生という視点を活かし、そしてコロナ禍に鑑みてどのように企画・広報を行うか、というのが今年のこのチームの課題の特徴であったろう。しかし、私たちが「主体的に」行動し、実行委員会や団体に私たちの案を「働きかけ」た。そして、「課題発見能力」や「課題解決能力」を養い、活用したことで、特にコロナ禍において生じた課題を解決、または最善の道に向けることができた。2021年2月21日に行われる本番に向けて、今後も活動を行っていきたい。